



令和4年度 立花吾嬬の森小学校 校内研究主題

地域を愛する児童の育成

1 単元名 「わたしたちのまちと市」

小単元名「市のようす」

2 単元目標

- (1) 自分たちの区の様子や特徴を理解できる。
- (2) 資料を通して学んだことから、墨田区の特色や他区との違いを考えたり、表現したりできる。

3 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①墨田区の特色ある地形、土地利用の様子、主な施設などの場所と働き交通の様子、古くからの伝統などを理解している。 ②墨田区は川と関係が深い区であることを理解している。 ③墨田区は工業・工芸と関係が深い区であることを理解している。	①墨田区の地域の特色を地形的な条件や社会的な条件と関係づけて考えようとしている。 ②学習した内容から墨田区はどのような区であるかを考え、表現している。	①墨田区の様子の特徴や良さを考えようとしている。 ②墨田区の様子に関心を持ち、学習を通して学んだことを生かして意欲的に調べようとしている。

4 指導にあたって

(1) 学習指導要領との関連

本単元は、次の学習指導要領の内容を踏まえて構成した。

小学校学習指導要領 第2節 社会 第2 各学年の目標及び内容 〔第3学年〕 1－(1)

身近な地域や市区町村の地理的環境，地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子，地域の様子の移り変わりについて，人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに，調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 児童の実態

本学級の子どもたちは、前小単元「まちのようす」の学習において、学校周辺の見学を行い、調べたことを交流しながら、土地利用の様子、建物の様子、交通の様子などの観点に沿って白地図にまとめる活動を通して、本校の位置する地区の様子を学んできた。その中で少しずつ、今までとは違った社会的な見方で自分たちの身近な地域をとらえ直そうとする態度が育ってきている。

また、学習前に行ったアンケートからは、区内の錦糸町駅、亀戸駅、スカイツリー（ソラマチ）には多く

の児童が実際に行ったことがあるものの、それ以外は「習い事の場所」や「大きなスーパー」「公園」以外ほとんど出てこなかった。加えて、児童が覚えていることは利用したことのある商業施設の様子がほとんどで、「墨田区の」という意識はなく、感想としても「楽しかった」「食べた物が美味しかった」以外ほぼない。

そこで、本小単元の学習では、「墨田区はどんな区だと思ったか」を毎時間の学習で書かせ、自分たちの住む地域に対する思いを持つ経験を積ませたい。

(3) 教材について

地域の様子を学習する本単元において、学習を焦点化するために単元を通して「水とともにある」「ものづくり」という大きな柱を2つ立てるようにした。

第1に、墨田区は東京都の東部に位置しており、いわゆる江東デルタ地帯の一部を占めている。面積の大半が海拔ゼロメートル地帯であり（標高が最も高いところで桜堤中学校の3.2 m、低いところでは旧中川公園のマイナス2.6 m）西は隅田川、北から東は荒川に囲まれている。さらには区内のいたる所に河川が入り組んでいるため、区内全体が河川沿いのような場所である。

このため、昔から水害に悩まされてきた地域であり、2019年の大型台風による河川の増水で避難指示が出されメディアを賑わわせたことは記憶に新しい。墨田区を学ぶ際に、この地形は児童にとらえさせたい本区の大きな特徴である。

第2に、墨田区は江戸時代明暦の大火をきっかけに都市復興計画として区画整理された市街として発展してきた。その際に移住してきた職人や商人によって工芸品の製造が盛んになり、近代から現代までその歴史が続く「ものづくりのまち」として存立している。また、河川に囲まれ、河川が区内を縦横に走るという特徴的な地形も、鉄道・ガソリン車以前の材料の運搬や、工場の立地条件として適しており、墨田区が「ものづくりのまち」となった理由の一端を担っている。

これら2つの柱をもとに「資料から学び、それをもとに話し合い、考える。」を毎時間の基本形として通すことで、社会科の学習の基礎となる力を育むことができると考えた。

これからの墨田区を生きる児童にとっても、近年の気象状況から水害対策は考えねばならぬ課題であり、加えて、大工場の区外移転や後継者不足などによってもものづくりのまちとしての基盤が崩れつつある現状において、児童が墨田区の「ものづくり」の魅力に気づくことは墨田区の未来をつくっていくことにもつながると考えた。

(4) 指導上の工夫

児童全員にとって豊かな学びとなるよう「通常学級内の特別支援」を第一に考える。

- ・「誰もがわかりやすい授業」のために、ICTを大いに活用する。毎時間の授業用コンテンツを作成してビジュアル授業で分かりやすい授業を目指す。
- ・「誰もが話し合いに参加できる授業」のために、インプットを大切にする。そのために、わかりやすい解説（図や写真を多用する。）で知識の蓄積を行う。
- ・「考えをもつことが苦手」「意見を書くことが苦手」な児童でも発言したり話し合いに主体的に参加したりできるように、他の児童の板書や児童の発表で真似ることのできるものを数多く示す。

(5) 研究主題に迫るための手立て

大きく2つを本研究主題に迫るための手立てとして設定した。

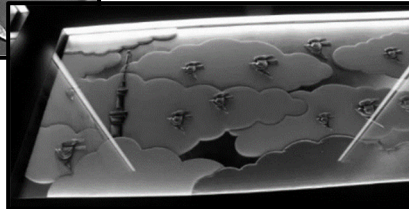
- ①児童にとって「身近さ」を感じさせるために、墨田区の特徴を考えさせる際に、なるべく本校近辺「立花の町」にある事例を教材として活用する。(人・物・事)
- ②児童に興味関心をもたせるために、授業がそれぞれ「知っている場所の知らないこと」となるような授業構成にする。

5 指導計画 (11時間 本時6/11)

時間	■何を学ばせたいか ○主な学習活動 ・予想される児童の反応	●留意点と備考 ◇評価																														
① ②	■墨田区の大まかな様子 ○「いい部屋ネット」の「2022 住みたい街ランキング」で墨田区は何位ぐらいか予想する。 ・1位 ・半分くらい など <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1位 中央区</td><td>11位 世田谷区</td><td>21位 府中市</td></tr> <tr> <td>2位 文京区</td><td>12位 豊島区</td><td>22位 練馬区</td></tr> <tr> <td>3位 目黒区</td><td>13位 江東区</td><td>23位 墨田区</td></tr> <tr> <td>4位 武蔵野市</td><td>14位 台東区</td><td>24位 多摩日の出郡</td></tr> <tr> <td>5位 港区</td><td>15位 新宿区</td><td>25位 北区</td></tr> <tr> <td>6位 渋谷区</td><td>16位 小金井市</td><td>26位 立川市</td></tr> <tr> <td>7位 品川区</td><td>17位 中野区</td><td></td></tr> <tr> <td>8位 三鷹市</td><td>18位 調布市</td><td></td></tr> <tr> <td>9位 国立市</td><td>19位 千代田区</td><td></td></tr> <tr> <td>10位 杉並区</td><td>20位 国分寺市</td><td></td></tr> </tbody> </table>	1位 中央区	11位 世田谷区	21位 府中市	2位 文京区	12位 豊島区	22位 練馬区	3位 目黒区	13位 江東区	23位 墨田区	4位 武蔵野市	14位 台東区	24位 多摩日の出郡	5位 港区	15位 新宿区	25位 北区	6位 渋谷区	16位 小金井市	26位 立川市	7位 品川区	17位 中野区		8位 三鷹市	18位 調布市		9位 国立市	19位 千代田区		10位 杉並区	20位 国分寺市		●単元を通して導入で墨田区の土地と川のフラッシュカードを使用する。 ●単元を通して授業の最後に、今日勉強したことで「墨田区はどんな区だと思ったか」を書いていく。→「墨田区は○○○○(な・の)区」 ●あくまで「ネットの調査結果」であることは伝える。 ●「市部含め23位(下から3番目)」という結果から、墨田区のことをたくさん勉強して、「本当はもっと良いところだぞ!」と他の人に魅力が伝わるような紹介ができるようになるうと学習の動機づけを行う。
1位 中央区	11位 世田谷区	21位 府中市																														
2位 文京区	12位 豊島区	22位 練馬区																														
3位 目黒区	13位 江東区	23位 墨田区																														
4位 武蔵野市	14位 台東区	24位 多摩日の出郡																														
5位 港区	15位 新宿区	25位 北区																														
6位 渋谷区	16位 小金井市	26位 立川市																														
7位 品川区	17位 中野区																															
8位 三鷹市	18位 調布市																															
9位 国立市	19位 千代田区																															
10位 杉並区	20位 国分寺市																															
	墨田区の特徴を調べて、その良さを広めよう。 ○墨田区はどんな区か話し合う。 ・広い区 ・他の区と比べて狭い区 ・川がたくさんある区 ・スカイツリーがある区 ・花火大会がある区 など ○上空から見た墨田区の大まかな様子をとらえる。 ○墨田区で知っている場所を書き出し、話し合う。 ・スカイツリーについて ・亀戸天神について ・国技館について など ○墨田区はどんな区だと思ったかを書き、まとめる。	◇ウ-① ●GoogleMap 航空写真を使用して上空から墨田区全体を俯瞰する。 ●既習事項である四方位を活用し、その場所が学校から見てどの方位にあるのかも考えるようにする。例「学校から見て東側…スカイツリー」 ◇イ-②																														
③ ④	■墨田区の土地の高さや広がり ■墨田区は川に囲まれた「水」とともにある区である ○墨田区は東京都のどこに位置するかとらえる。	●東京都の地図から墨田区が東京の東側にあること、荒川と隅田川の下流に位置することを確認する。																														

○海拔表示板(墨田区公式 web・実際の写真)を見て墨田区はどんな土地か話し合う。 ・海より低い場所が多い ・自分の家は海より低い  ○標高地形図(国土地理院)を見て、墨田区の土地の様子をビジュアルでとらえる。 ○「川が多い」「海拔0m以下地帯」が多いとどんな影響があるか話し合う。 ・台風で水があふれる ・水不足にならない ・地震とかで沈む など ○「路地尊」「天水尊」「土のうステーション」の資料を見て、何のために(どんな思いで作られたか)あるのかを考える。 ・井戸 ・無料の水道 ・工事の時に出土が置きっぱなし ・何かを押さえる ・水漏れをおさえる など  ○「川が多い」と良いことはないのか話し合う。 ・水がたくさん使える ・困ることのほうが多い など ○墨田区はどんな区だと思ったかを書き、発表し合う。	●児童とのやり取りで「川は高いところから低いところへ流れている」ことをおさえる。 ●海拔表示板が何を表しているかをおさえる。 ●「影響」という言葉ではなく「良いこと」「困ること」などの分かり易い表現で児童とやり取りする。 ◇イ-① ●身近にある路地尊→立花5丁目コミュニティ住宅 土のうステーション→立花公園・平井橋の写真を使用する。 ●特に路地尊は、地域住民の「地元愛」から考えられ生み出されたものであるというエピソードをおさえる。 「昭和56年、都市型水害に悩まされていた墨田区で、地域の住民がみんなで考え、防災とコミュニティのシンボリックなものを作ろうとなった。 路地尊には、「災害時には避難路になり、通常は地域の広場になる路地を尊ぼう」という、防災まちづくりの住民の愛が込められている。」 ●天水尊は墨田区から全国に普及した。 ◇ア-② ◇ウ-① ◇イ-②
■墨田区は工場が多い区である ■墨田区は鉄道が多い区である ■墨田区は川を利用して「ものづくり」が発展してきた区である ⑤ ⑥ ○墨田区の路線図を見て話し合う。 ・電車が多い ・どこにでも駅がある ・あちこちから電車が来ている など ○なぜ墨田区には鉄道が多いのか考える。	●児童は「電車」という呼称になると思われるが、乗り物そのものを指す言葉なので「鉄道」と呼び、そのことについては聞かれたら答える。(強請して訂正はしない。) ●「鉄道が多い理由も、実は墨田区に川がたく

・人がたくさんいる →墨田区は人の数で見たら23区の中で16位 ・電車が走りやすい など ○墨田区「土地利用調査」「経済センサス活動調査」の図とグラフを見て話し合う。 ・工場がとても多い ・立花にも工場があるのを見た など <table border="1"> <caption>23区工場数 22,302</caption> <thead> <tr> <th>区</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大田区</td> <td>13.8%</td> </tr> <tr> <td>墨田区</td> <td>9.7%</td> </tr> <tr> <td>葛飾区</td> <td>9.6%</td> </tr> <tr> <td>足立区</td> <td>7.7%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td>その他区部</td> <td>49.9%</td> </tr> </tbody> </table> 工場数 2,154 (23区中2位) ○なぜ墨田区には工場が多いのかを考える。 ・工場になる場所がたくさんある ・工場の仕事をする人がいっぱいいる など ○墨田区はどんな区だと思ったかを書き、発表し合う。 ■墨田区は古くから続く「ものづくりのまち」である	区	割合	大田区	13.8%	墨田区	9.7%	葛飾区	9.6%	足立区	7.7%	江戸川区	4.4%	その他区部	49.9%	さん流れていることにつながる」という流れで話をする。 ◇ウ-① ●墨田区は「製造業（ものづくり）」が多く、工場数は23区内で2位である。 ●工場は最近急に増えたわけではなく、昔からあったことをおさえる。 ●LION, カネボウ, 花王は墨田発祥。資生堂の大規模工場も墨田にあったため、「女性の美容とファッションは墨田なくしてありえない」ということを言う人もいる。（ソラマチにあるイッセイミヤケの洋服の裁縫も墨田の職人が数多く担当している。） ●土地利用調査の図では、大きな工場だけでなく小さな工場（町工場）がたくさんあることをおさえる。 ◇ア-③ ●話し合い後、「昔は物を運ぶために川を利用した」「工場では水をたくさん使う」という2つの理由を児童とやり取りしながら解説する。 ●「物を作るためには材料がいる」→「材料を運ぶ必要がある」→「トラックや鉄道(電車)がない時代はどうやって材料を運んだのか?」→「河川を利用して材料を運ぶことができた」 ●「工場では機械を使う」→「冷却や洗浄に水を大量に使う」→「水を大量に使い、あ水を流す必要がある」→「海や川のそばが水を取りやすく流しやすい最適な場所」 ●上記2つの理由から、川に囲まれている場所だからこそ「ものづくり」が発展したこと、時を経て技術の発展に伴い鉄道が縦横につくられたことをおさえる。（児童に身近な東武亀戸線も、もとは埼玉からの貨物列車用途含めて考えられて作られていた。） ◇ア-② ◇イ-② ●東日本金属(本校生徒の保護者が経営)さん提供の「スカイツリー展望シャトル内の装飾」実物を用意。 ●拡大写真をタブレットに送り、児童の手元でも大きく見れるようにする。 ●児童とのやり取りの中で少しずつヒントを出す。
区	割合														
大田区	13.8%														
墨田区	9.7%														
葛飾区	9.6%														
足立区	7.7%														
江戸川区	4.4%														
その他区部	49.9%														
⑦ ○「铸物の都鳥」を見て何に使われているものか考える。 ・おもちゃ ・どこかの飾り ・文鎮 ・お土産 など															



○墨田区の代表的な工芸品を知る。



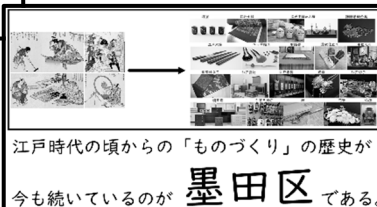
○人口が一番多い「世田谷区」と「墨田区」で、博物館の数を比べる。(世田谷区5 墨田区30)
・墨田区の方がとても多い

○墨田区はなぜ工芸品の制作が盛んなのか考える。

- ・材料がいっぱい集まるから
- ・つくる人がたくさんいるから など



川にかこまれた墨田区は、昔から材料を集めるのに最高の場所だった。



江戸時代の頃からの「ものづくり」の歴史が
今も続いているのが **墨田区** である。

○墨田区はどんな区だと思ったかを書き、発表し合う。

■墨田区は他にも魅力がたくさんある区である

「飾りである」→「皆も行ったことがあるかもしれない有名な場所に使われている」→「シャトル内の写真」→「シャトルの外観」→「スカイツリー」

●デザインは墨田区出身の高橋正美さん、都鳥の空の「押絵」「羽子板」も Made in 墨田で作成されている。

●昔からある技術で作られるものを「伝統工芸」ということをおさえる。

→「昔からあるぎじゅつで作られる物」とする。

●江戸切子、鍔(かざり)彫刻金具、漆塗り、江戸小紋(こもん)、藍染、木箸、江戸切子、かんざし、提灯、指物(さしもの)、押絵羽子板、人形、べっ甲細工、畳、革製品、花火

●実物を提示する。

◇ア-①

●博物館「価値がある文化、産業、工芸等の資料を保管と展示する場所」

→「かちがあるものを大切にほかんして、みんなに見てもらうための場所。」とする。

●主に以下の2つの理由である。

①前の時間に勉強した「工場が多い理由」と同様に、物を集めやすい場所だった。→川のおかげとも言える。

②1657年に起こった振袖火事と呼ばれる大火事で江戸の中心が全滅。その後、火事が起きても大丈夫なよう土地の使い方をみなおした。

そのとききれいに整理されたのが墨田の南側(本所)。※だからきっちり四角く分けられている。

町人がたくさん移り住んで(職人も)、文化工芸が発展するはこびとなった。

主に上記2つの理由で墨田には古くからの「ものづくり」の歴史がある。

◇イ-①

◇イ-②

●自由に発言させるが、間違えて覚えているものは児童とのやり取りの中で訂正を入れる。

(江東区のもものが混じることが多い)

◇ウ-①

⑧
⑨

○「水とともにある」「ものづくり」の他に、墨田区で人に伝えられる魅力はどんなものがあるか話し合う。

- ・スカイツリー
- ・花火大会
- ・相撲 など

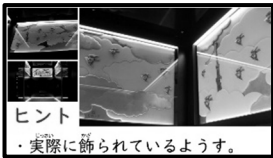
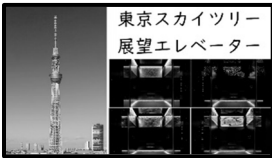
	○隅田川の「花火大会」について知る。 ○両国国技館の「相撲」について知る。 ○隅田川の「桜」について知る。 ○墨田区はどんな区だと思ったかを書き、発表し合う。 ■学んだことを振り返り適切にまとめる	●200年以上前(1733年「両国の川開き」がはじまりと言われている)から続く(途中で何度も行われていない時期はあるが)花火大会。 疫病と飢饉で大勢が亡くなった慰霊と悪霊退散を願って花火が打ち上げられたのがはじまり。 ●「国技」と言われ、起源は神話の時代まで遡る。江戸時代からほとんどルールも姿も変わっていない。 ●江戸時代に徳川吉宗が桜を植えたのがはじまり。さくら名所100選にも選ばれている。 ◇イ-② ウ-②
⑩ ⑪	○これまでに学んだことで自分が心に残ったことを、ノート見開き2ページ(記事3つ、Q&A1つ)の記事としてまとめる。	●webサイトやガイドマップ等の資料をたくさん用意する。 ◇ウ-②

6 本時の指導(3/8)

(1) ねらい

- 資料の読み取りと話し合いを通して墨田区は古くから続く「ものづくりのまち」であることをとらえる。

(2) 展開

時間	○学習活動 Q 発問 ・説明	●留意点 ◇評価
～3	○導入 「墨田区の土地と川フラッシュカード(自作)」 ○前時までの振り返り 「水とともにある区」 「鉄道・工場が多い区」	●発言するのが苦手な児童を意図的に指名するようにする。
～10	○「鑄物の都鳥(ミヤコドリ)」を見て何に使われているものか考える。  Q 墨田区で作られたこれは何に使われているものだろうか。 ・デザインは墨田区出身の高橋正美さん、シャトル	●実物を持って回るとともに、拡大写真を資料として提示する。 ●児童とのやり取りの中で少しずつヒントを出す。また、様子を見て途中で隣の児童同士で相談させる。 「飾りである」→「皆も行ったことがあるかもしれない有名な場所に使われている」→「シャトル内の写真」→「シャトルの外観」→「スカイツリー」   ヒント ・実際に飾られているようす。

~ 35

～ 4 0	・もう1つは江戸時代、東京の中心江戸の町は墨田区すぐ近くにありました。1657年に「ふりそで火事」と呼ばれる大火事があり、江戸の町はほとんど焼けてしまい10万人もの人が亡くなりました。 その後、火事が起きても大丈夫のように土地の使い方を見直して、その時にきれいに整理されたのが墨田区の南側の部分です。 そこに町の人がたくさん移り住んだことで、ものづくりをする人が大勢集まり、工芸品がたくさんつくられるようになりました。 こうして今の墨田区に「ものづくりの職人」が集まり、エゲいひんがたくさん作られた。 ・墨田区では昔から盛んだったものづくりの歴史が今も続いているということですね。	
～ 4 5	○墨田区はどんな区だと思ったか自分の考えを書き、発表し合う。	◇イ・②

7 板書計画

※向かって左側はプロジェクターを使用し、スライドを表示する。

	6/22(水) <墨田区⑦> ・でんとうエゲいひん→昔からあるぎじゅつで作られる物。 ・はくぶつかん→かちがあるものを大切にほかんして、みんなに見てもらうための場所。 はくぶつかんの数 世田谷区→5 墨田区→30 Qなぜ墨田区にはこうげいひんを作るところがたくさんあるのか。 A ①川のおかげで物を集めやすい場所だったから。 ②江戸時代から「ものづくりのしょく人」が住んでいたから。 ☆墨田区は、昔からあるものづくりのれきしが今も続いている。
--	---

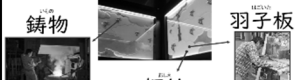
7 (続き) スライド一覧 左から右へ

社会

区のように



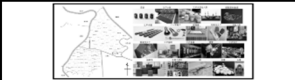
ヒント
・実際に飾られている場所。



鋳物 押し絵 羽子板




https://www.city.sunido.lg.jp/index.html



墨田区に伝統工芸品を作る所が多い理由
① 物を集めやすい場所だった。




死者10万人のこの大火事で江戸の町はほぼ全滅してしまった。

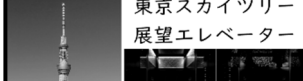


こうして今の墨田区に「ものづくりの職人」が集まり、工芸品がたくさん作られた。

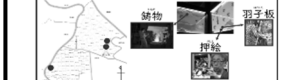


墨田区

- 1、東京の にある。
- 2、 にかこまれている。
- 3、区のいろいろなところに が流れている。
- 4、 がわだけキッチリ整理されている。
- 5、 と が多くある。



東京スカイツリー展望エレベーター



全部、墨田区で作られた物。



はく物かん

を大切にほかんして、みんなに見てもらうための場所。




川にかこまれた墨田区は、昔から材料を集めるのに最高の場所だった。



江戸城

墨田区は江戸城のすぐ近くにあった。



火事が起きても逃げられるように大きな橋を作って、町もキレイに整理しよう！



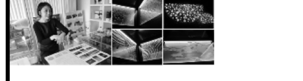
墨田区

- 1、東京の東にある。
- 2、川にかこまれている。
- 3、区のいろいろなところに川が流れている。
- 4、南がわだけキッチリ整理されている。
- 5、工場と鉄道が多くある。



Q 墨田区で作られたこれは、何に使われている物だろうか。

ヒント
・どこかの飾りである。
・かなり有名な場所の飾りである。



4つの季節を表現したデザイン



でんとうこうげいひん
伝統工芸品
 で作られたもの。



はく物かん
Q 墨田区には、はく物かんがいくつあるだろう。



はく物かんの数
世田谷区ー5 墨田区ー30



墨田区に伝統工芸品を作る所が多い理由
② 江戸時代から、 がたくさん住んでいた。

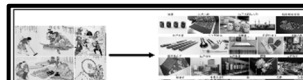


江戸城

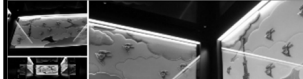
ある時、江戸でとんでもない火事が起こる。



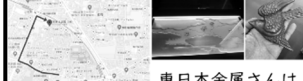
りょうごくばし 両国橋



江戸時代の頃からの「ものづくり」の歴史が今も続いているのが **墨田区** である。



ヒント
・実際に飾られているようす。



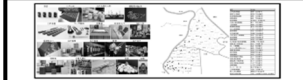
東日本金属さんは 年前から立花にある工場。



まだまだあるぞ！
墨田区の伝統工芸品



人の数1位 世田谷区 人の数16位 墨田区
東京で1番多く人が住んでいる世田谷区は、はく物かんが5つある。

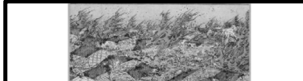


Q なぜ墨田区には でんとう工芸品 を作る所がたくさんあるのだろうか。



墨田区

- 1、東京の東にある。
- 2、川にかこまれている。
- 3、区のいろいろなところに川が流れている。
- 4、南がわだけキッチリ整理されている。
- 5、工場と鉄道が多くある。



1657年 ふりそで火事



町の人がたくさんうつり住んで、とてもにぎわった。

Q 墨田区はどんな区だろうか。

8 参考文献・Web サイト

彩流社「墨田区・江東区古今散歩」

日本実業出版社「スーパービジュアル板 江戸・東京の地理と地名」

祥伝社「家康、江戸を建てる」

名著出版「墨田区の歴史（東京ふる里文庫）」

株式会社トゥーヴァージンズ「江戸・東京 歴史さんぽ」

明治書院「東京 10000 歩ウォーキング No.23 墨田区 墨東・向島コース」

メイツ出版「古地図で歩く 江戸・東京 歴史探訪ガイド 決定版 歴史探訪ルートガイド」

教育出版「子供のよさが生きる社会科 3年」

明治図書「新・社会科授業研究の進め方ハンドブック」

明治図書「子どもの力を育てる授業構成の手順」

学芸みらい社「アクティブラーニングでつくる新しい社会科授業」

墨田区公式 web サイト <https://www.city.sumida.lg.jp/>

ふるさと納税サイトふるさとチョイス <https://www.furusato-tax.jp>

国土地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>

三井住友トラスト不動産このまちアーカイブス <https://smtrc.jp/town-archives/index.html>

ジャパンアーカイブス <https://jaa2100.org/index.html>

GetNavi web <https://getnavi.jp/>

LIFULL HOME'S PRESS <https://www.homes.co.jp/cont/press/>

雨水市民の会 <https://www.skywater.jp/>

墨田区伝統工芸保存会 <https://www.hozonkai.com/index.html>

工芸ジャパン https://kogeijapan.com/locale/ja_JP/

カメイドタートルズ <https://kameido-turtles.jp/>

TOSHIBA <https://www.global.toshiba/jp/>